

# 上野俊一先生追悼特集

CJ 編集部

2020年10月3日に、日本洞窟学会の発展にご尽力された、上野俊一先生が89歳でご逝去されました。本記事では、上野先生と関わりの深かった方々に追悼文をいただき、掲載させていただきました。追悼文を読みながら、上野先生との思い出を振り返っていただければと思います。

上野先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## 略歴

1930(昭和5)年12月8日	大阪府に誕生
1953(昭和28)年	京都大学農学部農林生物学科卒
1960(昭和35)年	京都大学大学院理学研究科修了、理学博士
1960(昭和35)年	国立科学博物館に入庁
1967(昭和42)年10月	日本洞穴学研究所に所属、理事に就任(～2013年3月)
1975(昭和50)年	日本洞窟学会に所属(設立メンバー)
1976(昭和51)年1月	日本洞窟学会評議員に就任(～2011年)
1978(昭和53)年7月	著書「洞窟学入門 暗黒の地下世界をさぐる」出版
1982(昭和52)年	日本ケイビング協会会長に就任(～1988年)
1986(昭和61)年1月	日本洞窟学会会長に就任(～1989年)
1987(昭和62)年度	国立科学博物館動物研究部室長に就任(～1993年度)
1994(平成6)年	日本洞窟協会会長に就任(～1996年、最後の会長)
1994(平成6)年度	国立科学博物館動物研究部部長に就任
1995(平成7)年度	国立科学博物館名誉研究員に就任(～1998年度)
2013(平成25)年4月	日本洞穴学研究所顧問事に就任(～2016年3月)
2020(令和2)年10月3日	ご逝去(享年89歳)



2013年11月の上野俊一先生  
(野村周平氏提供)

## 上野俊一先生を悼む

日本洞窟学会の元会長である上野俊一名誉会員が2020年10月3日にご逝去されました(享年89歳)。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

上野先生は大阪府にお生まれになりました。幼い頃から生物、特に甲虫に興味を持たれており、京都大学にご入学後は洞窟性の甲虫、特にオサムシ科チビゴミムシ類の研究を始められました。大学および大学院在籍中に日本中の洞穴を調査され、「The trechids of Japan, with special reference to the problem of cave fauna(日本のチビゴミムシ類 - 特に洞窟種の問題について)」という学位論文で、1960年に理学博士を取得されました。その後、国立科学博物館で学芸員の職に就かれ、最初の数年間は爬虫類と両生類を、後に昆虫を担当されました。国立科学博物館にご在職中には動物研究部室長、動物研究部部長を歴任され、ご退職後は同博物館の名誉研究員も務められました。

一方、多くの学協会の運営にも携わってこられました。本学会でも設立当初から評議員を1986-1988年には会長も務められました。また、日本ケイビング協会でも理事や会長(1982-1988年)を、日本洞窟協会でも理事や会長(1994-1995年)を歴任されています。両協会が本学会がと発展的に合併したあとも、2011年まで本学会の評議員を務められ、本学会の発展に貢献されました。

このほかに、日本昆虫学会の会長(1991-1992年)、岩泉町の日本洞穴学研究所の理事(1967-2013年)や顧問(2013-2016年)なども務められています。さらに、先生は多くの学術誌の編集に携わってこられました。本学会が発行している「洞窟学雑誌」では、会長在職期間などの数年を除いて、創刊当初からほぼ一貫して編集委員長に任じられました。

先生は国内外で多くの調査・研究を行って、長年に渡る研究成果を非常に多くの論文・記事として発表し、素晴らしい功績を残されました。その数は、洞窟学雑誌に掲載されているものだけでも70編以上に及んでいます。特に地下性生物についての研究成果は国内にとどまらず、国際的にも大きな学術的貢献となり、日本洞窟学会功労賞(2019)や日本動物学会賞(1985)を受賞されました。また、「洞窟科学入門 暗黒の地下世界を探る」(共著;1978)、「原色日本両生類爬虫類図鑑」(共著;1963)、「原色日本甲虫図鑑(2)」(共著;1985)といった書籍も執筆され、普及啓発にもご尽力されました。

このように上野俊一先生には、我が国の洞窟学・洞窟生物学や日本洞窟学会の発展に多大のご貢献を賜りました。ここに、先生から薫陶を受けた諸氏の追悼文を掲載するとともに、先生のご遺徳を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

日本洞窟学会会長 山田 努